

M. K.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が留学を目指したきっかけは、元々英語が好きで、その好きな英語をもっと使えるようになりたいと思ったからです。また、日本を離れて、海外という違う環境で生活することで自分の視野を広げたいと思ったからです。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学前は単語を中心に勉強していました。また、私は自分のクレジットカードを持っていなかったので、クレジットカードやキャッシュパスポートを作りました。

③ 現地到着後

ホストマザーが空港まで迎えに来てくれました。また、空港から家までは車で移動しました。学校のオリエンテーションではクラス発表やテストや成績のつけ方についての説明がありました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

マニトバ大学はとても広く、場所を覚えるのに時間がかかりました。また、UC というところには、食堂やカフェ、ブックストアから美容院まで様々なお店があってとても便利でした。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は主に Grammar、Reading、Conversation がありました。また、Pronunciation や Idiom などの授業もありました。Culture talk という授業はいろいろな国の文化を知ることができて面白かったです。Grammar と Reading は毎月テストがあり、パソコン上で受けます。また、偶数月にある Final exam に合格すると上のクラスに上がることができます。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は毎週木曜日に行われる Language exchange に行っていました。この Language exchange では日本人と日本に興味がある外国人が集まり、それぞれのグループに分かれて自由に会話します。前半は日本語タイムで日本語で話し、後半は英語タイムで英語で話します。とても日本語が上手な方などもいて驚きました。また、IEP（英語集中プログラム）主催のアクティビティにも参加していました。このアクティビティでは美術館に行ったり、スケートをしたり、スポーツ観戦をしたりしました。

⑥ 現地での住まいについて

最初のホストファミリーはマザーと子供が 3 人いました。変更後のホストファミリーはマザー 1 人でした。どちらの家も学校までは 30 分弱くらいでした。変更後のホストファ

ミリーの家では、朝はシリアルやヨーグルトなどを自分で用意して食べ、昼はサンドウィッチをホストマザーが作ってくれていました。夜はマザーがイタリア系のカナダ人だったのでイタリア系の料理が多くおいしかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

私は長期休暇前にイギリスのロンドンに旅行に行ったので、長期休暇は旅行には行きませんでした。そのため、長期休暇はマザーとおでかけしたり、映画を見たりしていました。また、クリスマスにはマザーの友達や親戚とクリスマスパーティーをしたり、大晦日には友達とカウントダウンの花火を見に行きました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

最も思い出に残っているのは、川の上でスケートをしたことです。ウィニペグはとても寒いので、冬になると川が凍り、その上でスケートすることができます。このような日本ではできないような貴重な体験ができて良かったです。また、たくさんの外国人の友達ができました。その子たちとパーティーをしたり、いろいろな場所に遊びに行ったのもいい思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

私はホストマザーときちんと意思疎通が取れていなくて、よくお互いに勘違いをしているということがありました。そういう時は私の思っていることを言おうとしてもうまく英語で表現することができず苦勞しました。しかし、最後までお互いに理解するまで話し合うことでより良い関係を築くことができました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私がカナダで驚いたことは、洗濯機を週1回しか回さないことです。私の家では1日に3回回すので、最初は週1回で足りるのかなと思いました。試してみると週1回でもなんとか足りました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持っていく、特に役に立ったもの

パソコンは授業の課題だけでなく、マンスリーレポートでも使うので必需品です。また、ウィニペグはとても寒いのでヒートテックを何枚か持っていくことをお勧めします。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力がとても上がりました。その成果は帰国後に受けた TOEIC にも現れました。また、日本とは違った環境で生活することで、様々な価値観や文化に触れることができ、視野を広げることができました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に行くことによって、様々な価値観や文化の違いを知ることができ、視野を広げることができます。また、日本では経験できないような体験することができます。今、もしあなたが留学に行こうかどうか迷っているなら、私は留学に行くことを強くお勧めします。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

私の目標は、大学卒業までに TOEIC で 800 点以上取ることです。また、将来は外国の人と流暢な英語で会話できるようになるように頑張りたいです。

V. 写真



これは Language exchange で仲良くなった方が、私と友達の誕生日会を開いて下さった時の写真です。



これはクリスマスパーティーに行く前にホストマザーと撮った写真です。

H. K. (社会システム学科・2 年次生)

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は海外に旅行したりするのが好きで春休みや夏休みに行ったりしていたのですが、その度にいつも英語の重要性を感じていました。特に海外ボランティアに参加した際、活動の指示など全て英語で話され、あまり理解できず少し足でまといになったり、同じ参加者とのコミュニケーションがうまくできず愛想笑いばかりしていました。そして、自分が伝えたい要件を相手に伝えられなかったり、歯がゆい思いをいっぱいしました。そういった様々な経験から、英語を話して他国の人とコミュニケーションを取れるようになりたいという気持ちが強くなり、このセメスター留学に出願しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学決定からは、英会話に耳をならせようと思い、海外ドラマや映画を Netflix で見ていました。また、英単語の勉強もしていました。

③ 現地到着後

ホストマザーが空港まで迎えにきてくれて、帰り道にウォールマートで一緒に買い物をしました。翌日はホストマザーが、仲のいい友達とお昼を食べに行くから一緒にどう？と言われて、ついて行ったのですが、その相手は Winnipeg Blue Bombers というアメリカンフットボールのクラブに属している選手で、初日からかなり貴重な経験をしました。学校生活において、最初のうちは慣れない異国の環境であったり、時差もあたりでとてもしんどかったです。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

大学の施設はかなり広く、最初は自分がどこにいるかわからなくなるぐらいでした。学校のメイン施設とも言える University Center には食堂みたいなところや（日本のラーメンのお店がありました）、スターバックス、ティムホートン、文房具が買えるところがあります。ティムホートンはカナダで人気のコーヒー・ドーナツ屋さんで、昼休みや授業が終わった後にほぼ毎日行っていました。IEP（英語集中プログラム）の先生は、みんな親切で良い人たちばかりで、なかには日本に在住経験がある方が 3 人もいました。

◆ 授業内容、課題、試験

IEP のクラスは下は 300、上は 700 まであります。2 か月ごとに各教科テストがあり、そのテストの点数や普段の小テスト、出席や授業態度などの項目を含め全体で 60 点以上あれば上のクラスにレベルアップすることができます。授業内容は、主に Reading、Writing、Speaking、Grammar、Talking ですが、レベルごとに少し違ったりしていました。テストは、ちゃんと復習をしていればほとんどの人は落ちることはないと思います。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

IEP には毎週アクティビティがあり、なかでも大学内にあるアイスリンクでスケートしたことが思い出に残っています。そのほかには、毎週水曜日に教会で行われる英会話クラブに参加していました。ウィニペグは移民が多い都市であるので、アフリカ、南アメリカ、ヨーロッパ、ロシア、アジア出身からの人達が参加しており、そのクラブはかなり国際色豊かでした。クリスマスにはお互いお菓子や食べ物を持ち寄ってクリスマスパーティーをして楽しみました。また、Language Exchange (日本語に興味がある人が日本人留学生と日本語や英語で楽しく会話するクラブ) で仲良くなった友達がダンスクラブに所属しており、それに誘われて参加してみたりしました。

⑥ 現地での住まいについて

私のホームステイ先は大学まで約 10 分、乗れる路線は 2 つと、通学において立地は良かったです。ホストマザーが用意してくれた部屋は広く、ベッドも大きかったのでとても快適な環境で、さらに自分専用のバスルームもあり、ホストマザーが使う時間を気にすることなく使えました。食生活については、平日の朝は自分で簡単に作り、昼はだいたい前日の夜ご飯の余りを持って行っていました。マザーの作る料理はとても美味しかったのですが、普段日本で食べている料理と比べ、やはりヘビーで少しきつかったので週に 1、2 回は自分で作って食べるようにしていました。私のホストマザーは家に友達を呼ぶのが好きな人で週末にパーティを開いたりしていたので、いろんなネイティブの方と話す機会があり会話力が上がりました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

私のホストマザーとマザーの親友、同女の友達 1 人とクリスマスショッピングをしにアメリカに行きました。行き方は車で、陸路の国境越えという日本ではできない経験をしました。また、ウィニペグから少し離れた都市に住むホストマザーの友達の家にお邪魔して 1 泊しました。そして冬休みにはニューヨークへ行き、約 1 週間滞在しました。自分の夢であったタイムズスクエアでのカウントダウン、ブロードウェイを見ることが叶い嬉しかったのと一生の思い出になりました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

様々な国の人と友達になれたことです。最初、クラスでは緊張していてあまり他国の学生と話せなかったのですが、時間が経つにつれて緊張がとけ、お互いの国のことを話したり、一緒にご飯を食べに行ったりしました。特に中国人の友達とは漢字の話で盛り上がることもありました。クラスの雰囲気も良く学校に行くのが楽しかったです。また一番印象に残っているのは、他の学校に行った友達がわざわざ自分が日本に帰る前に会いに来てくれたことです。その時は本当に嬉しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学してからの最初の1か月は大変でした。私は留学に行く前に海外ドラマなどを見て英語を耳にならせていたつもりでしたが、いざ現地へ行くと自分のリスニング力の低さを実感しました。ホストマザーの言っていることがあまり理解できず、聞き返すことが多く、またお店の店員さんは当初自分にとってはとても早口で全くといっていいほど何を話しているか理解出来ませんでした。なので、何か買いに行く時は毎回緊張していました。さらに、スピーキング力も低く、ホストマザーが話しかけてくれるのに短い文章でしか返すことができず、これからの5か月自分は大丈夫なのか、やっていけるのかと心配に思っていました。あとはバスです！バスは日本と違い遅れることがほとんどで、本数も多くはないので移動が大変でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

カナダは日本と違いかなりのカード社会で、コンビニでもみんな基本はカードで払っていて、驚いたのは自販機でカードが使えることです。他には、お店の店員さんがとてもフレンドリーで日本の接客スタイルと違います。私はカナダのスタイルの方が好きです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

1 番は SIM カードだと思います。留学に行く前にアマゾンで2週間使える SIM カードを購入しました。留学中、既存のスマホをカナダの携帯会社(Lucky Mobile)と契約していましたが、カナダに着いてからの数週間は忙しく、契約しに行くことができなかったのがかなり助かりました。やはりなれない土地で道に迷ったり、バスの時間を調べられないのは不安になると思うので最初の数週間分利用できる SIM カードを持って行くことをおすすめします。あとは、パソコンです。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

特に Speaking と Listening が上がったと思います。特に会話で、簡単な単語から徐々に長い文章で相手に返せるようになりました。以前は店員さんが何を言ってるかわかりませんでしたでしたが、理解できるようにもなりました。また、英語力が上がっているのが自分で実感できたことが嬉しかったです。他には、国や文化が違う人達と話したりすることで自分の考え方や価値観が変わったし、視野も広がったと思います。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学生活は楽しいことばかりではなく、しんどいことも多いし、日本に帰りたいと思うこともありました。しかし、留学後には必ず何かを得て、みなさん成長することができると思うし、自分の自信に繋がると思います。なので、もし行くかどうか迷っているのなら、行くことをおすすめします！

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今は、旅行関係の仕事に就きたいと思っています（インバウンド観光に興味がある）。
あとは TOEIC の点数を上げていく為に勉強をしていきます。

Ⅴ. 写真



IEP で仲が良かった友達との写真です。バスを待っている時間に撮りました！



私と私のホストマザーとホストマザーの親友、親友の子どもとお孫さん達とクリスマスパーティーをしました。カナダのクリスマスは日本と違い、年齢関係なくプレゼントを渡します。

A. M.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私の理由としては、将来の夢を考えたときにどうしても英語力が必要となってくると考えたからでした。日本にいても英語を学ぶことはできますが、生きた英語を学びたいと思い留学に行くことを決意しました。決意するまで時間を要しました。社会システム学科であるというレッテルがあり国際課に行く度胸もなかったのも、留学前は特に国際交流プログラムには参加していません。セメスター留学の出願の締め切り間近にやっぱり行こうと決心がつき参加を決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

カナダでは観光 VISA の取得が必須になってきます。また私の場合は、関空からホノルル、バンクーバー、ウィニペグという乗り継ぎがあり、ハワイ入国の際にアメリカの ESTA も必要だったのでこちらも留学前の準備期間中に取得しました。勉強面では PODCAST を利用したりして英語に慣れた耳を作ることに心がけました。それと単語も日々ノルマを決めて取り組みました。

③ 現地到着後

空港でホストファミリーと会い、車でホームステイ先に向かいました。学校の初日のオリエンテーションでクラス発表、各種注意事項、校内ツアーがあります。私たちが到着した前の月から少しルールが変更になり、学生証がもらえず困りました。何か月か後に ID センターで発行できることが分かり、発行してもらいました。バスの定期を買う際などに見せる必要があるのも、初日のオリエンテーションでもらえなかった場合は早めに発行することをお勧めします。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

研修先のマニトバ大学は主要地から少し離れたところにあり治安は安全です。校内はおおよそトンネルで繋がっており、寒い中外にあまりでなくても移動できるようになっています。IEP（英語集中プログラム）の先生方は学生思いの方ばかりなので、わからないことがあればすぐに先生に聞きに行くことが大切です。

◆ 授業内容、課題、試験

IEP の授業は Grammar・Writing・Reading・Listening・Speaking と 5 分野を学習します。レベルが 300 から 700 まであり、私は 300 からスタートして文法を中心に教えてもらいましたが、簡単で、プログラム終了までにできるだけ多くのことを身につけたく現地のアドバイザーの方と相談し 400 を飛び級という形で合格し 500 に上がりました。2 か月ごとにクラスが上がるテストがあり、そこで 60 点以上を取得すると合格です。上がる機

会は2か月に1回しかなく、400から始まるとセメスター語学留学中には700のクラスを受講することができません。もし700まで修了したいのであればアドバイザーに相談して飛び級してみるのもいいと思います。やはりクラスのレベルが上がると難易度も大幅に変わるので、チャレンジしてみるのはいすごく留学後の英語力に影響してくると思います。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

授業後は様々なアクティビティーが IEP で用意されています。水曜日は **Conversation Club** です。現地の学生がアクティビティーリーダーとして参加してくれていてカードゲームやボードゲームをしたり、英語でコミュニケーションを取ります。木曜日はスポーツアクティビティーで、カナダならではのフロアホッケーをしたり、バドミントン、バレーボール、バスケットボールなど週替わりで様々なスポーツを行います。同じレベルのクラスの人だけでなく、他のレベルのクラスの人たちも多く参加して一緒にスポーツを楽しむので、友達作りには最適です。金曜日（たまに土曜日）はメインのアクティビティーで、季節のイベントに合ったプログラムや、アイスホッケー観戦、ウィニペグの美術館や博物館を訪れたり、多種多様です。

IEP の事務所に行けば、ボランティアの情報も得られます。私はボランティアの情報を聞きに行くのが1月に入ってからと行動が遅かったため参加できるボランティアがありませんでした。参加しようと思っているならば早めに行動することをお勧めします。

毎週木曜にランゲージエクスチェンジというものがあり、現地にいる日本語を学びたい方々と日本人が英語 30 分・日本語 30 分で交流するというものです。なかなか IEP にいると現地の方々と出会う機会がないので、IEP の日本人にはありがたいものだと思います。しかし、始まる時間が遅いこともありホームステイ先に帰るバスがなくなってしまうこともあるので、確認してから参加することをお勧めします。**Facebook** で **UMJA Events** と検索すると詳細が出てくるので確認してください。

マニトバ大学にはジムがあり、有料ですが私たち IEP の学生も利用可能です。1 セメスターで約 70 カナダドルで、無料のロッカーもありますが別途有料でロッカーを借りることもできます。ジム内には無料のロッカーもあり、ホームステイでシャワーの時間についてルールを決めることもあると言われていますが、シャワーの時間を気にせず浴びることができます。ジムにはクラブのようなものもあり、バドミントンのクラブに参加していました。1 セメスターでお金を払って参加可能です。マニトバ大学の人達と友達になるきっかけを作ることができます。バドミントン以外にもダンスや水泳などがあり、ジムの受付に行けば詳しい情報を得られます。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイは初めのところが学校から遠く1時間くらいかかっていました。途中乗り換えで20分外で待たなければなりませんでした。そのあとのホームステイ先は立地がよくバスもたくさんあり、歩いて数分のところにスーパーがありました。家族構成は両親と、同じくホームステイをしている台湾人の女性が2名いて明るい家庭でした。ホストマ

ザーがイタリア人の方で食事内容は基本イタリア料理で時々カナダ料理を食べていました。週に一度お米の日があり、日本米に似たお米をわざわざ買ってくれていたので日本食が恋しくなるというのは比較的になかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

年越しはニューヨークへ行き Airbnb を使い安くて 7 日間過ごしました。留学プログラム終了後にロサンゼルスに行き、カリフォルニアディズニーやユニバーサルハリウッドなどに行きました。11 月末に友達のホストファミリーと一緒にノースダコタ州に車で行きました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

思い出深いのはホームステイで暮らす中で、どんどんホストファミリーとの壁を感じなくなりました。寝る前にハグしてくれたり、英語の宿題を親身に手伝ってくれたり、やはり他人とそこまでの関係になるのは難しいと思いますが、壁がなくなったと感ぜられてからは本当にホームステイを楽しむことができました。あとは、親友と呼べる友達ができて最後は毎日のように遊んでたことです。ウィニペグでの生活が友達ができてからつまらないと感じなくなり、学校に、遊びに、ホームステイに、すべてにおいて留学の後半は楽しめていたと思います。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

初めのホームステイ先とうまくいかず最初から壁にぶち当たりました。思っていることもうまく伝えられなかったので 1 番苦勞したと思います。しかしそれから恵まれた環境だったので、はじめの頃を思い出しながら感謝しながら留学生活を送りました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本は交通機関が充実していますがウィニペグはそうではありません。しかも冬の時期は積雪が絡むのもっと悪くなります。20 分、30 分待つことは普通にあります。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

日本から持っていくべきものは、電子辞書、ノートパソコン、モバイルバッテリーです。授業内では携帯は許可のない限り使わないようになっているので、わからない単語を調べるために辞書を持っていくことをお勧めします。また、課題は基本パソコンで行うのでパソコンも必須です。モバイルバッテリーは極寒の外出先で携帯を使っているとすぐに電池を消耗するので、あると安心できると思います。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

24 時間英語に接するのでリスニングがすごく伸び、過去ベストの TOEIC スコアから

100 点アップしました。リスニングパートでの点数の獲得が大きかったです。スピーキングはテストからはわかりませんが、発音も日本人っぽさが少し抜けたと思います。また、今まで自信をもって英語を話せずにいましたが、今は失敗を恐れなくなりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

思い立ったらすぐ行動することが本当に大切です。行動しなかったら英語力を伸ばすチャンスを失ってしまうと思うので、活動的になってみてください。あとはせっかくお金を払って英語を話せる環境に飛び込んでいくので、できる限り日本語に触れる機会を減らしてみてください。活動的にできることに取り組んでいると留学後に変わったなと思えると思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

留学前からずっと航空関係分野で働いてみたいという思いがあり、留学後からアルバイトのチェックインアシストスタッフとして関西空港で働いています。留学の経験を活かせる職業に就きたいと考えています。また、留学決断まで社会システム学科というレッテルを貼ってしまっている自分がいたので、これから留学について不安を抱える人たちを微力ながらサポートできたらなと思います。

V. 写真



留学後ロサンゼルスのカリフォルニアディズニーを訪れたときの写真です。



すべて雪を使ってできた迷路にマニトバ大学の友達も含めていった時の写真です。

R. M.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が留学を目指した理由は英語を話せるようになりたかったことと、休学・留年することなく外国でホームステイを体験してみたかったからです。また趣味でクラシックバレエを習っているのですが舞台が春学期中にあるため、秋学期にもチャンスがあるセメスター留学は私にとってぴったりの留学制度であり、今回の留学を決意しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

日常会話で使う単語や例文を覚えたり、TOEIC やキクタンなどの単語の復習をしたりしました。

③ 現地到着後

ホストファミリー総出で空港まで迎えにきてくれました。そのまま家に向かい、食事をしてその日は早めに寝ました。時差ボケもあったのでゆっくり休んだのが良かったと思います。次の日は学校の行き方を教えてもらったり、バスのチケットを買いについてきてもらったりしました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

◆ 授業内容、課題、試験

300～700 の 5 つのクラスがあり、留学前のウェブテストでクラス分けされました。テストの結果次第で上のクラスに上がれるので放課後友達と一緒に勉強したり、ホストファミリーにわからなかったところを質問したりしました。

週に 3 日、お昼までで授業が終わる日はお昼ご飯を食べがてら友達と遊びに行ったり、IEP（英語集中プログラム）のアクティビティに参加したりしました。午後まで授業がある日はまっすぐ家に帰り（ステイ先のバスの便が悪く、早く帰らないと夕食に間に合わなかったため）、ホストマザーと一緒に子供たちを託児所に迎えに行ったりしました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

週に一度近所にあるバレエスクールに通っていました。ホストファザーがご好意でスタジオまで送り迎えしてくれ、とても助かりました。また月に 3 回ほどホストマザーとホットヨガに行ったりもしました。学校のアクティビティには毎回は参加しませんでした。グラウンドホッケーやバドミントン、ヨガ、ボードゲーム、Language Exchange（日本に興味のある現地の人と英語と日本語でおしゃべりする会）などに参加しました。

⑥ 現地での住まいについて

私のホストファミリーはコミュニケーションをとることを大事にする家族だったので、できるだけ家族とかかわりをもつようにしました。ホストブラザーやホストシスターと一

緒に遊んだり、家族みんなで映画やドラマを見たり、夕食時には家族全員が集まるのでその日の出来事を話したり、家族が誘ってくれるパーティーやお出かけにはできる限り参加したりしました。その結果、ホストファミリーのみならずホストファミリーの親戚やお友達と仲良くなり、現地で必要なもの（服やスノーパンツ、全身鏡など）を譲っていただけたりしました。

またお金を払っているとはいえ自分の家ではないので、家事を率先してするようにしていました。ホストファミリーのプライベートな部屋などは掃除していませんが、台所や玄関、特にリビングはまだ小さい子供たちがすぐに汚してしまうため食事が終わると箸で食べこぼしを片付けたりしました。シャワーを使った後も髪の毛が落ちていないかどうかを確認するようにしていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

バレエのレッスンやホットヨガにも通いつつ、泊まりに来たマザーの妹家族達と一緒に遊んだり、ホストファミリーの親戚・お友達のところへ遊びに行かせてもらったりしました。近所の公園でそりすべりをしたり、ホストマザーお気に入りのベーカリーをはしごしたり、ちょっと良いレストランでホストファミリー達と食事をしたりしました。クリスマスとニューイヤーには親戚が 20 人ほど集まってパーティーをしました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

今回の留学で楽しかったこと、最も印象に残っていることは、気持ちの良い素敵な人たちと過ごせたことです。特にホストファミリーやその親戚の方たちはジョークが大好きな人たちで、いつも楽しい空間を作ってくれていました。私も負けないようにジョークを言ったり、面白いネタを探したりしていました。帰国する際には“*We lost our rival in jokes...*”とファミリーに言ってもらえて嬉しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

クラスメートに困った人がいたこと（自分の意見ばかりで人の話を聞かない、グループディスカッションなのに英語を話さず同じ国籍の人同士自国の言葉でずっと話してしまう、授業中の態度が悪い 等）、それから交通の便が悪くて何度か迷子になったことです。バスが時間通り来ないのはもちろん、友達と出かけた先から自分の家までのバスがなく帰れないということが何度かありました。ステイ先があまりバスの止まらない地区であることもあり、ホストファミリーから「バスがなさそうなら車で迎えに行くのですぐに連絡すること、危ないから近くのスターバックスやティムホートンで待つこと、決して遠慮はしないこと」と言われていたので、途中まで迎えに来てもらったりしていました。そうしたこともありどこにいて何時に帰るのかの報告を細かく連絡する必要があったり、必然的に他の友達よりもかなり早く家に帰らなければならなかったり、そういった点では少し苦勞

しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本との違いで驚いたことはおかえり、ただいまといったような家を出入りする際に声かけをしないことです。日本人の性なのか少し寂しく感じたので、誰かが帰って来るときには welcome back（おかえり）と言うようにしていました。するとホストファミリー皆が真似するようになり、私のおかえりという言葉聞くのが好きだと言ってもらえて嬉しかったです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

ヒートテックやタイツなどの防寒具はもちろんですが、整腸剤や風邪薬はとても重宝しました。スーパーで買ったオニオンフライを食べた後、夜中に腹痛と脱水症状でトイレから出られなくなったことがありましたが薬を飲んでしばらくすると良くなり、病院にも行かずに済みました。

また空気が乾燥しているので私のように敏感・乾燥肌タイプの方は化粧水や乳液を持っていくことをお勧めします。現地にもクリームなどがありますが、私は肌に合わなかったため日本から送ってもらいました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

帰国後 TOEIC が留学前よりも解きやすく感じるようになりました。英語を話すことのみならず日常生活においても英語を話すことや自分の意見を言うことに臆することが少なくなり、行動力も格段に向上しました。また移民の国ならではの「人と自分が違うのは当たり前、お互い否定せずに認め合う」といったような考え方ができるようになり、以前よりも自分と他人の違いを許容できるようになりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学する直前まで漠然とした不安がある方は多いと思います。私自身留学前は自分の英語力で授業についていけるのか、ホストファミリーが嫌な人だったらどうしよう、道に迷ったり寒さに耐えられなかったりするのではないかなどと色々不安に思っていたましたが、実際行ってみるとなんとかなるものでした。しかしこの「なんとかなる」というのは他人が自分のお世話をしてくれて解決したという意味ではなく、自分で調べて行動してみて、それでも駄目だったら周りの人に助けを求めてみた結果解決できたという意味です。どちらかというと「なんとかした」という方が適切かもしれません。この何とかするという行動力は留学中自然と身についてくるものだと思うので、最初に述べたような心配をする必要はないと思います。英語はなんとか通じるし、仮にホストファミリーともし合わなかったとしたらステイ先を変えてもらえばいいし（もちろん相応の理由が必要ですが）、道に迷ったら周りの人に聞けばいいし、どうにか解決していけると思います。だからもし少

しでも留学したいという気持ちがあるなら是非トライしてみてください。留学中は良いことも悪いこともたくさんありますが、学べることはとても多いです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

このまま英語を継続して勉強し、世界中どこに行っても困らないようにしたり、外国人観光客のお手伝いをしたり、世界のいろんな人とお話ししたりしたいです。英語が話せるようになれば今回の留学で会うことができたホストファミリー達のような、ユーモアたっぷりで親切で素晴らしい人達と出会う可能性がぐんと高くなると思います。そういった方たちとの出会いや外国を見て回ることで見聞を広げ、人生の財産となるようにしたいと思っています。

V. 写真



ホストファミリー・ホストファザーの両親・妹家族達と。1か月に2回は会うほど仲良しな家族でした。帰国した今でも Instagram などを通してメッセージのやり取りをしています。親切でユーモアのあるファミリーのところに滞在出来て本当に幸せでした。



9歳のホストブラザー、エリオット。私とホストファザーがジョークの言い合いをしていると「僕だって面白いことができるよ！」と言って着替えてきた姿がこれです。予想外の格好でしばらく笑いが止まりませんでした。



ダウンタウンのバス停にて。ダウンタウンは治安があまりよくないので1人で行くことはしませんでした。バス停などはしっかりとしたもの（暖房・風よけの付いた待合室、電光掲示板付き など）が多いです。



ステイ先の最寄りのバス停の様子。ほとんどのバス停はこうした看板のみのもので、雪が降ると寒いうえに停まるバスの番号やバス停の名前も見えず大変でした。

H. O.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

高校生の頃、2 週間オーストラリアに語学研修に参加した際に、もっと話せるようになりたい、もっと日本以外の文化を見てみたいと思いました。また、住み慣れた日本という世界から離れて 1 人の人間として成長できるのではないかと考えました。そのため、大学生になったら留学に行きたいと思っていたので、今回このプログラムに参加しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

国際課の方々がかなりサポートしてくださったので特に困ったことはありませんでした。カナダはカード社会だと聞いたので、クレジットカードを作りました。また、私は日本にいた間に SIM カードを用意していました。カナダでの SIM カード購入はてこずっている人も多かったので、SIM カードを入れ替えようと思っている人は先に日本で購入しておくことをお勧めします。

③ 現地到着後

空港に着くとホストマザーが私の名前の書いたプレートを持って待っていてくれました。そして車でステイ先まで送ってもらいました。月曜日から学校が始まる予定だったので、土曜日にウィニペグに着いて荷物を片付けたりホストマザーがウィニペグを全体的に紹介してくれたり、ゆったりとした日曜日を過ごしました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

大学内は敷地が広がったのでよく迷子になりました。建物と建物が地下のトンネルでつながっているので、寒い中外に出ずに移動することができました。テスト前にはカフェでコーヒーなどを買って図書館や食堂、自習室で友達と勉強していました。大学のスタッフはみんなフレンドリーで優しい方々ばかりでした。

◆ 授業内容、課題、試験

IEP（英語集中プログラム）には 300 から 700 まで英語レベル別にクラスが分かれています。テストが毎月末にあり、2 か月ごとのテストに合格すると上のクラスに進めます。私は 400 からスタートしました。400 は grammar と reading がメインでした。500 になるとパラグラフの書き方を練習する writing、reading、ペアに分かれて role play を行う speaking を主に勉強しました。600 は writing でエッセイを書き、ディスカッションやプレゼンテーションなどアウトプットがメインの授業でした。授業を通して同じクラスの外国の子と仲良くなることができました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は毎週木曜日の夕方から行われる language exchange に参加しました。これは日本に

興味のある現地学生とウィニペグに留学または滞在している日本人が交流できるアクティビティです。そこでは日本のことについて英語で話したり、日本語の文法や言葉の意味について教えたり、逆に英語を教えてもらったりして、たくさんの現地の友達をつくることができました。また、週末には IEP の学生が参加できるアクティビティに参加し、寒いウィニペグならではのウィンタースポーツを体験することができました。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイではお母さんと 14 歳の息子さんと一緒に暮らしました。息子さんはシャイなのか反抗期なのかたくさん話せませんでした。ホストマザーは時間が合うといろんなところへ連れて行ってくれました。家から学校までは 40 分から 60 分ほどかかりました。留學生活後半、家からバス停までの 10 分の道のりが雪のせいで通ることができなくなることもあり、現地で買ったブーツも歯が立たないときは遅刻するのではないかと焦り、とても困りました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

トロントとニューヨークへ行きました。トロントのお隣のハミルトンにある友達のホストマザーのお家へ友達と友達のホストマザーと行き、4 日間滞在しました。そこでクリスマスパーティーに参加したり、礼拝に行ったりしました。トロントから直接ニューヨークへ向かい、1 週間滞在しました。ニューヨークでは観光だけでなく、年越しを体験しました。私たちは残念ながらタイムズスクエアでカウントダウンはできませんでしたが、ニューヨークで年越しをしたということは一生の思い出です。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

冬のウィニペグならではのウィンタースポーツを体験できたことです。本物の川の上でスケートを体験しました。また、ウィニペグの地形が平坦であることからスキーで滑ることはできませんでしたが、クロスカンントリーを体験しました。 -30°C の極寒の中悪戦苦闘しながら汗だくになって楽しみました。日本ではなかなかできることではないので、すごく思い出に残っています。また、language exchange で出会った友達とご飯に行ったり遊んだりした時間は留学に行ったからこそその出会いと経験だと思うので、これからも大切にしていきたいです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

バスが時間通りに来なかったことです。留學後半になると毎日 -30°C 、1 番寒かった日は -50°C の中、学校に行かなければなりません。そんな中バスが時間通りに来ないため 20 分、30 分、長い時は 1 時間近く待つ時もありました。また、ステイ先に犬と鳥が 3 匹いました。食卓の上で鳥が飛び回っている光景はなかなか慣れませんでした。また早朝から鳥の大合唱で起こされるのは少しストレスになっていました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

普通に知らない人と会話が始まることです。買い物中やバスを待っている時、様々な場所で今日寒すぎる！やこの店のこれオススメだよ！などみんなフレンドリーに話しかけてくれました。ウィニペグの人たちの温かさを感じることができました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンはレポートやパワーポイントなどの作成に必ず必要なので持って行くべきだと思います。SIM カードは日本で購入し持っていく方がすぐ使えますし、英語での難しい契約などないのでお勧めです。下着は多めに持っていくことをお勧めします。洗濯が毎日できなかったり、洗濯中に下着が破れる事件が起こる事があったので、持って行って損はないと思います。ヒートテックや五本指ソックス、厚手のマフラーかネックウォーマーなどの防寒グッズはとても役に立ちました。消耗品の持っていくすぎは注意した方がいいと思います。生理用品やシャンプーなどはカナダでも売っているからです。肌が敏感な方は必要かもしれませんが、そうでなければ持っていくすぎて持っていったものを持って帰らないといけないうことになり、帰りのパッキングの時に処分をどうするか迷いました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニングが特に伸びたと思います。ネイティブのスピードに耳が追いついて来たように感じました。語彙力がとても伸びたという感じはありませんが、知っている単語から使える単語が増えたという点で自分の英語力の成長を感じました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

海外での生活は英語力だけでなく、そこでの生活への適応能力、異文化に対する対応能力など人間的にも成長できる機会だと思います。嬉しいこと悔しいこと驚くことなどいろんなことを経験できます。外国にたくさんの友達もできます。ぜひ留学先で思いっきり楽しんで、日本では手に入らない貴重な思い出を作ってください！

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今回の留学で得たリスニング力を劣らせないように勉強していきたいです。また、TOEIC のスコアを上げていきたいです。まだスピーキングに自信がないので授業での発言をできるだけ多く意識したり、留学先の友達と連絡を取ったりして伸ばしていきたいです。

V. 写真



留学終了後 1 週間ロサンゼルスへ旅行に行きました。カリフォルニアディズニー、ユニバーサルスタジオハリウッド、ハリウッドなどたくさんの観光地に行きました。留学後だったこともあり英語にも自信を持って楽しむことができたので最高の思い出です。

M. 1.（英語英文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

幼い頃から英語が好きで海外の文化に興味がありました。また高校生の時に短期でイギリス留学に行ったことがあり、その時に大学生になったらもっと長期で留学したいと考えたのがきっかけです。

② 留学決定から出発までの準備期間

まず、5 月頃に留学が決定してすぐ、航空便のチケット購入、そして eTA 申請をしました。留学期間中にアメリカ旅行もしようと考えていたので ESTA も同時に申請しました。また、SIM カードは、北米やヨーロッパで使える 2 週間のものを 5 か月分日本で購入して持って行きました。次に、極寒の地に滞在するということで、冬服やヒートテックなどの衣類を準備し始めました。留学先では、たいていの家で 1 週間に一度程度しか洗濯ができないので、特に下着類は 7 枚程持って行った方が良いでしょう。しかし、服の一番上に着るダウン、そしてブーツは現地調達をおすすめします。なぜなら、マイナスの気候で過ごすカナダ人向けに作られたカナダ製のものの方が、日本製のものよりはるかに優れているからです。また、手袋は、五本指のものではなく、ミトンの方が確実に温かいです。逆に靴下は、五本指ソックスを履いて、その上にタイツを履くととても温かったです。基本的に生活する上で必要なものは現地に揃っているのも意外と心配することはなかったのですが、私は肌荒れなどするのが不安だったので、使い慣れている化粧品や洗顔フォームなどは持って行っていました。その他の生活用品はすべて現地で買っていました。

③ 現地到着後

まず、関西空港からバンクーバー経由でウィニペグまでは、同じカナダ留学生のみんなと行きました。到着後は、それぞれのホストファミリーが待っていて、そこから車で家まで送ってもらいました。その日は夕食をホストファミリーと一緒に食べ、就寝しました。次の日にホストマザーから洗濯機の使い方や家庭内ルールなどを教わり、スーパーに日用品を買いに連れて行ってもらいました。学校のスタートが月曜日からだったので、土曜日の夜に到着する便を選び、到着翌日の日曜日はゆっくり過ごせるようにすることをおすすめします。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

◆ 授業内容、課題、試験

セメスター語学の留学生は、正規大学の授業ではなく、マニトバ大学内にある IEP という語学研修機関の授業を受けるのですが、事前に受けていたプレイスメントテストを元にオリエンテーションの日にクラス分けが行われ、授業がスタートしました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

IEP は、アクティビティが豊富に行われており、毎週金曜日の午後によく参加していました。金曜日のアクティビティは、観光地や人気の場所にスクールバスで送迎してくれるものや、学校内で季節ごとのイベント（ハロウィンパーティーやクリスマスパーティー）を行うものがあつたりと、とても充実していました。IEP 全体の学生が参加できるので、違うクラスの学生と話したり仲良くなれる絶好の機会でした。毎週木曜日には、IEP ではなく大学主催のランゲージエクスチェンジという、日本や日本語に興味のある現地の人と日本人が交流するアクティビティがあり、とても楽しかったので本当におすすめです。

⑥ 現地での住まいについて

私は、71歳のホストマザーと二人暮らしだったので、2階建ての家がとても広くスペースがあり、シャワー室やトイレは私専用のものがありました。ホストマザーはフィリピン出身だったのですが、料理がとても上手で、アジア系の食事はとても美味しかったです。しかし自分が食べられないものや嫌いな食べ物は、はっきりと断らなければ伝わらないので、ごまかさずはっきり伝えた方が良いと思います。普段の生活では、他の家庭に比べて、良い意味であまり干渉されず、自由な時間が多かったです。ただ、私はよく外出してしまっていたので、マザーと2人で過ごす時間が少なかったと少し反省しています。困ったことがあつた時は、相談するととても親身になってくれる良いマザーでした。週末には、マザーの息子さんとお孫さんの赤ちゃんがよく訪れていました。その時は一緒に夕食を食べ、その赤ちゃんとお過ごすことが私にとって癒しでした。家は、大学から比較的近い距離にあり、夏は自転車ですぐいけるらしいのですが、冬だったのでバスで10～15分かけて通学していました。最寄りのバスの本数が少なかったり、バスが時間通りに来なかったため、寒くて辛かった記憶があります。

⑦ 長期休暇の過ごし方

約2週間の冬休みの長期休暇に、トロントとニューヨークへ旅行に行きました。やはり距離も近く、安価で訪れることができるので、留学前から国内旅行やアメリカ旅行をしたいと考えていました。本当はニューヨーク旅行だけのつもりだったのですが、ホストマザーがトロントにいる家族とクリスマスをお過ごしということで、私も招待してくれました。そこで、まずトロントに4日間滞在し、その後友達と合流してニューヨークに向かいました。ニューヨークには1週間滞在しました。本当に充実していて楽しかったです。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

一番楽しかったことを思い出そうとしても、今思い返すのは、何気ない普段の日常です。学校に行き、様々な国から来ている学生と話し、先生に色々なことを教わり、午後から友達と話したり勉強したり買い物に行ったりアクティビティに参加したりして、家でホ

ストファミリーとくつろぐという、普段の生活がとても新鮮で楽しかったことを覚えています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

課題と寒さです。まず、クラスのレベルが上がるにつれて、難易度が上がるとともに課題の量も多くなるのですが、最後のクラスの時期は、ほぼ毎日放課後に居残ってみんなで課題をしていました。しかし今思い返すと、とても自分のためになっていたのも、最後まで頑張っていた良かったなと思います。また、寒さが尋常でなかったのも、とても辛かった思い出があります。基本的に厚着をしていればそこまで辛いことはなく、マイナスの世界でも意外と生きていけるのですが、バスを待つ時が本当に辛かったです。ウィニペグのバスは絶対に時間通りに来ず、10分以上遅れることがざらにあります。室内で待てる場合はよいのですが、乗り換え地点の待合室のないバス停などで、遅れるバスを待つのは本当に辛かったです。肌を出すと凍り、痛いので、スマホを見たりイヤホンで聴くことも我慢してひたすら待ち続けていました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ウィニペグがあるマニトバ州は生活費が比較的安く、移住しやすい地域であったことから、様々な人種の人々がいました。従って英語も訛っている人が多かったのです。しかしそれを綺麗な英語に直すのではなく、「訛りは個性だ」と人々が認めており、とても感銘を受けたのを覚えています。また、ホストマザーと過ごす上で細かな文化・習慣の違いが多々ありました。まず、ホストマザーに限ったことではないのですが、毎日シャワーを浴びない人が多かったです。気候の関係により、毎日浴びる必要がなかったり、水道代が高いといった理由からです。あとはホストマザーはよくメモ書きを残してくれたのですが、その文字が古い筆記体のもので読めなかったのも、楷書にしてほしいと頼んだ覚えがあります。他には、トイレトペーパーを日本で使用していたのと同じくらいの量で使っていたら、使いすぎだと言われ、それからは自分で負担しようと思い購入していました。また、家が土足だったため、家に帰ると毎日スリッパに履き替えていました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持っていく、特に役に立ったもの

パソコンは絶対に必須です。あと、使い慣れた日本の英単語帳や英語学習本は役立ちます。それから、常備薬も必須です。カナダに絶対売っておらず、気候の変化が甚だしいので、体調を崩した時にいつも飲んでいる風邪薬があると安心です。その他は、先程述べたようにヒートテックや化粧品、それと、マスクは向こうであまり売っていなかったのも、持参の方がよいかもしれません。しかし、カナダでは、外出先でマスクを付けていると重病だとみなされるので、付けている人はいませんでした。あくまで室内で乾燥した時などに付ける用になるかと思います。また、カード社会なので、現金を使う機会はそれほど

多くないのですが、友達とお金を折半する時などに役立ったので、数万円程持って行くのが良いかもしれません。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

特にリスニング力とスピーキング力が向上したように思います。到着したばかりの頃は、授業で先生の話している内容がわからなかったのですが、少しずつ聞き取れるようになっていきました。また、授業の発表や、ホストファミリー、カナダの友達との会話によりスピーキング力も向上しました。さらに、精神面が強くなりました。初めて家族と離れて長期間違う国で過ごすということで、今まで家族に甘えていたり頼っていた部分を反省し、少しの辛いことでは挫けなくなりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は、留学生活に心から満足しています。英語力だけでなく様々な面で自分自身を成長させ、異文化に触れて視野を広げられる絶好の機会でした。これ程長期間、留学できるのは大学在学中ならではだと思うので、少しでも興味があれば参加してみることをおすすめします。絶対に後悔することはないです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

この留学を通して、海外で働いたり、グローバルに活躍できる仕事に就きたいとより一層思いました。具体的な職種はまだ定まっていないのですが、カナダ留学で身に付けた英語力、思考力やコミュニケーション力をはじめとする人間力を、社会でも活かせる人間になりたいです。

V. 写真



空気が綺麗だからか、空の色が本当に綺麗で大好きでした。どんなに寒かったり落ち込んでいる時でも、空を見上げて気分を上げていました。朝焼けの紫ピンクから黄色へ、昼間には澄んだブルー、夕焼けのオレンジ、夜は漆黒の空に満天の星が非常に美しかったです。

M. T.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私がセメスター留学を希望した理由は、会話力を中心とする英語力の向上のほか、英語圏での長期間の生活を実際に体験することによって現地の文化を学び、英語話者であると共に、異文化理解者になることを、この大学生活の目標に掲げているからです。この目標を達成するために、大学では英語の授業を中心に受けたと思う他、留学を経験したいと高校生の時から考えており、大学進学においてもこの学部学科を志望し、入学しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

5 か月間の滞在予定だった為、ビザを申請する必要がなく、代わりにオンラインから登録出来る eTA を申請しました。また、私は自分のクレジットカードを持っていなかったため、カードの申請も行いました。カード会社によっては申請に時間がかかることもあるため 1 か月以上前から自分の名義のクレジットカードを用意しておくと思えます。同様に携帯も、現地で使える SIM カードを日本にいる時に早めに調達しておく、特に到着直後は現地でかなり心強いです。語学の勉強について、私はスピーキング力を特に上げたかった為、TOEIC などの資格勉強というよりは日常会話などで使えるイディオムや発音に慣れるために、CNN のニュースを見たり、洋画を見たりして、ネイティブの英語に出来るだけ多く触れるようにしました。これは帰国後も耳が鈍らないようにする為に必要な習慣だと思います。

③ 現地到着後

渡航日当日は、ホストファミリーが車で空港まで迎えに来てくれました。私の名前が書いてある紙を持って待っていてくれたおかげで、スムーズに合流することができました。ステイ先のお家に着いたのが夜だったため、当日は夜夕食を食べた後、自分の部屋と水回りについてのみ簡単に紹介してもらい、すぐシャワーをして就寝しました。学校が始まるのが 2 日後だった為、次の日にお家全体の紹介やルールと学校までのバスのルートを教えてもらいました。学校のオリエンテーションでクラスが発表され、授業中のルールや時間割や試験日程や成績の付け方について具体的な説明がありました。オリエンテーションが終わって午後から早速授業に入りました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

◆ 授業内容、課題、試験

私が受けていた IEP という語学研修プログラムは 300、400～700 までの 5 クラス構成でした。渡航前に Web で受けたプレイスメントテストの結果で 500 からのスタートでした。2 か月で 1 タームで、最初の 1 か月がタームの後半スタートだった為、10 月は 500、11～

12 月が 600、1～2 月が 700 のクラスでした。最初のクラスは課題も少なく、順調な成績で授業を受けられたのですが、レベルが上がるにつれて授業内容も難しくなりエッセイやプレゼンも増えてきたので学校に夜遅くまで残って課題をやっていて大変だった時もありました。またタームの終わりに final examination もあり全体の成績の 60 パーセント以上取れていた次回のクラスに上がれるというシステムなので、与えられた課題をコンスタントにこなしていくのが大事でした。学校内には遅くまで開いているカフェや図書館もあったので勉強する環境は快適でした。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

IEP のためのアクティビティが週 3 でありました。水曜日は conversation club という英会話のための小規模のアクティビティ、木曜日はバドミントンやバスケットなど毎週違うスポーツをするアクティビティ、そして金曜日か土曜日の週末はミュージアムやスキーなど、学校外のスポットに行くアクティビティがありました。特に週末のアクティビティが充実していたため、充実した放課後を過ごすことができました。また木曜日のお昼 2 時くらいまでのスポーツアクティビティの後に、夕方からランゲージエクスチェンジという、日本語と英語を使って現地の学生さんと交流するアクティビティもありました。かなり人脈の広がるアクティビティだったので行ってよかったと思います。

⑥ 現地ででの住まいについて

ホームステイ先はドイツ系カナダ人のホストマザー、ホストファーザー、ホストシスター、ホストブラザーと、ホストシスター・ブラザーの従兄弟の婚約者(インド系)の 5 人暮らしの家でした。ホストシスターもホストブラザーも 20 代後半で、ペットも飼っていませんでしたので、騒音などの問題もなく、さらに料理も美味しかったので素晴らしいステイ先だったと思います。料理については、ホストマザーお手製のグラノーラが毎朝食べれたのが思い出になっています。晩御飯もほぼ毎回違う料理を出してもらっていて、特にスープが美味しかったです。昼食にはサンドイッチを作ったり、前日の晩御飯の残りをタッパーに詰めて持って行ったりしていました。地下に一人部屋が用意されていて、同じく地下にあるシャワールームとトイレを、ホストシスター・ブラザーの従兄弟の婚約者の人と 2 人で共同で使っていました。彼女の帰宅時間の関係から、シャワー(ドライヤーも含む)は 23 時までに終わらせるということが唯一のルールでした。帰宅時間に関しては夕食の有無を含め、事前に連絡をすれば門限はありませんでした。またキッチンにある食べ物や紅茶やコーヒーなどは自由に取っていいよと言ってもらえました。クリスチャンの家庭だったのですが日曜日の朝の礼拝に毎週連れて行ってもらっていました。ここでも色んな人と出会えて色んな経験ができたので本当に良かったです。唯一の難点が家から学校の距離でした。バスを 2 本使う必要があり、乗り換えがうまくいけば 40 分ぐらいでつけたのですが、バスが遅れたりこなかったりした時は 1 時間半近くかかりました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

クリスマス前から 2 週間くらいの休暇があり、クリスマスはホストファミリーと教会で

過ごしたのですが、年末年始は友達とニューヨークに旅行に行ったのであつというまに終わりました。ニューヨークでは見るところも沢山あり、気候もウィニペグに比べかなり快適だったため、どこに行っても楽しかったです。すごく良いリフレッシュになったので、少しでもお金に余裕があれば旅行に行くべきだと思いました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

学校で放課後友達とご飯を食べに行ったり、アクティビティで色んなところに行けたり、エアビに泊まってパーティーをしたことが楽しかったです。友達のお陰で普段の学校生活から充実した日々を送ることができました。またホストファミリー関連では、クリスマスや日曜礼拝などで皆の前でピアノを弾かせてもらったことがとても思い出に残りました。思うように英語を話せなかった部分も多くありましたが、ピアノからまた話の輪が広がり、たくさんの人と繋がることができて嬉しかったし、苦労した中でも10年以上習い続けてきていて、本当に良かったと思いました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

渡航してから1か月半近く経った頃にホストファザーのお母さん(ホストグラندマザー)が亡くなったのが一番苦しい経験でした。渡航してきてすぐのサンクスギビングデーの時は元気で、私も話すことができたのですが、急に体調を崩し2週間くらい入院した後、亡くなってしまったので、お見舞いに行くたびに状態が悪くなっていくのを見ていてホストファミリーも苦しそうでした。お葬式にも参加しましたが、日本とは全く異なったお葬式のスタイルを目の当たりにしたり、そこでも色んな人と話をした経験を通して、出会いの大切さや、別れの向き合い方について深く考えさせられたので、辛かったけれど自分にとっても意味のあった経験だと思っています。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

上記で述べたお葬式のスタイルについて、日本は参列者全員が黒い服を着てシリアスな雰囲気の中で行われるのが一般的ですが、カナダで参加したお葬式はみんなが普段着のまま参列していて、思い出のビデオや音楽を流し、賛美歌を歌ったりして故人への感謝の念を明るく表現する雰囲気の中でお葬式が行われていたことに驚きました。個人的にはとても魅力のある習慣だと思いました。ホストマザーの言っていた“亡くなった人も、周りがずっと深く悲しんでいることを望んでいない”という言葉が残っています。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは絶対必要です。もしタブレットを持っている人がいれば、タブレットも絶対持っていくべきだと思いました。その他電子機器で役立ったものは、電子辞書と体温計で

した。私は現地で2回体調を崩したのですが、粉末のポカリも必要だと思いました。下着などについては、洗濯が1週間に1回しかできなかったのも最低でも7枚ずつは要と思います。ウィニペグにユニクロがなかったのも、ウィニペグの冬季で留学を希望している人はヒートテックも持っていくべきです。シャンプーなどのアメニティはもちろん現地にもたくさん売ってはいますが、やはり日本から持ってきて良かったと思いました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

英語力に関して、特にリスニング力が上がったと思います。毎日ネイティブの発音を聞いている環境で過ごしていたのは大きいと思いました。また、現地の友達の SNS をたくさんフォローしたので、帰国後の今でも英語を読んだり英語でコミュニケーションをとる機会はそこでも増えたと思います。ただ、英語の勉強は別途に続けていく必要があるもので、引き続きニュースを見たり海外の記事を読んだりすることが今後も必要であると思いました。語学力以外の面では、留学中に移住してきている友達など、沢山の文化背景を持つ人たちとの出会いが多かったのも、異文化に触れることができ、留学前とは少し違った視野で物事を考えることができるようになったと思います。今の日本の生活においては、特に観光客のお客さんの多いバイト先でやり取りをしていく上で、それが役立っていると思います。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

金銭面に余裕さえあれば絶対に行くべきだと思います。ワークホリデーなどで長期間海外で生活をしてみたい、卒業後でも行こうと思えば留学にも行けませんが、やはり大学生活の中で行くと帰国後の大学生活においても進路選択においても生かせる場面も増えるので、大学生活中に行くのが特におすすめです。もし留学に行くことが決定していたら出発前から英語をある程度は話せるようにしておくべきだと思います。また留学に行ったら必ず語学力が伸びたり人として成長できるという訳ではないので、留学先で積極的に色々な人と出会って色々な場所に行ってみたり、日記をつけたりするなど、自分の留学は一日ずつ自分自身で意味のある経験にしていくものだと思います。もちろん留学中は予期しない困難も多々起こりましたし、絶対日本にいるより苦勞することが山ほどありましたが、全て自分にとって必要な経験だったと思うものばかりだったので、なければ良かったと思う日は一日もありません。人間としてもより成長できる経験であるため、現状にある程度満足している人ほど留学を強くおすすめします。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今回の留学を通して、日本が住む国としてベストであることを実感しましたが、やはり海外で働いたり海外の人と関わる仕事がしたいので、日本に住みながら海外への出張が多いような職業に就けるのが理想だと考えています。私はアート・デザイン分野にも興味が

あるので、具体的な夢はアート関連の雑誌や他のメディア媒体を、海外で自分で取材した後編集したりすることですが、あくまで夢なので一つの道として視野に入れながら、今回の留学経験を生かせる将来を見据えていきたいです。

V. 写真



年末にニューヨークに旅行に行った時の、最終日のエンパイアステートビルから撮った写真です。この旅行でもアメリカ英語とカナダ英語の違いや人種の多さなどを目の当たりにした面白い体験ができました。これもいきなり日本から行くのではなく、カナダで過ごしてから行ったニューヨークだからこそ発見できた事が多かったと思うので、留学中の旅行もいい経験になりました。